Keyword　日本語の歴史、中世の九州地方の言語表現、古文書

九州地方におけるコミュニケーション実態の日本語史的研究

国際文化学部
日本文化学科
教授
辛島 美絵

研究シーズの紹介

本研究は、日本語史研究の立場から、中世以前の九州地方におけるコミュニケーションの実態を調査・検討するものです。

中世以前の日本語資料は都の貴族のよそゆきの文章語ばかりなので、地方在住の人々が実際の生活の中でどのような言葉を用い、どのようにコミュニケーションを行っていたのかについては、ほとんど分かっていません。

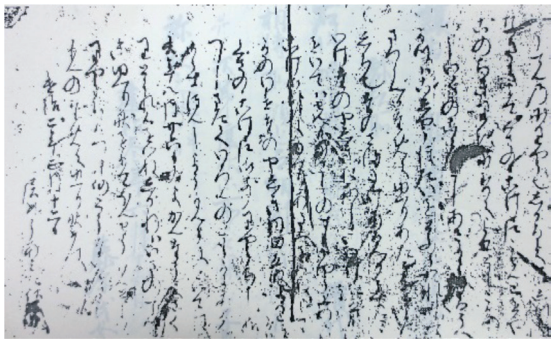
そこで、中世の九州在住の人が残した仮名文書（仮名書きの古文書）に着目し、そこから当時の庶民のコミュニケーションの実態を探ることを目指しました。

どのような概念を、どのように言語化するかは、その社会の文化によって異なります。本研究は、中世の九州の人々の対話のあり方を実証的に解明し、現代の九州の文化研究に繋ぐための基礎的研究です。

Point

日本文化の基礎的研究
↓
言語・歴史・資料・地域研究やコミュニケーションスキル向上に応用可能

（1）日本語の歴史的研究が可能になります。
（2）言語面からの九州の文化形成にアプローチできます。
（3）日本語史資料の開発に貢献できます。
（4）他の地域の言語の歴史的研究にも応用可能です。
（5）コミュニケーションスキル開発に貢献できます。



13世紀の女性が平仮名で書いた遺言状
（建治2年1月12日　尼めうあミた仏譲状『宗像大社文書』吉川弘文館より）

漢文の古文書のまねをして、「しかるに」や「くだんの」などの語を多用してますが、文章を分析すると、「…によって、…によって、…のうえ、…ために、…」のように文がなかなか切れないなど、現代の話し言葉のような特色が出ています。

↓

九州には中世の仮名文書が比較的多く残っています。これを一通一通分析して、当時の九州の話し言葉の特色を探ります。

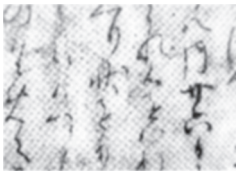
期待される活用シーン

● 言葉でうまく伝えたいのに、コツが分からない人はいませんか?

→ 話し言葉と書き言葉それぞれの歴史と表現の特色を知り、実生活に活用することができます →

● 九州の文化と歴史を知りたい!

→ 言葉と文化の歴史を知ることによって、今の問題に多角的な思考で対処できるようになります →



その他の研究テーマ　日本語資料としての仮名文書の研究